

第2回生駒市健康増進計画策定懇話会 会議録（案）

- 1 日時 平成24年11月19日（月） 14:00～16:00
- 2 場所 メディカルセンター 3階研修室
- 3 出席者
（参加者） 近藤氏、天野氏、中溝氏、山田氏、藤尾氏、油浦氏、本田氏、田中（久）氏、池田氏、古川氏、内田氏、小中氏、米田氏、吉村氏、伊達氏、西澤氏、奥田氏
（事務局） 池田福祉健康部長、尾山健康課長、近藤健康課課長補佐、川島健康課主査、田村健康課係員
- 4 欠席者 澤井氏、田中（敬）氏、深谷氏
- 5 議事内容
 - 1) 開会
事務局 前回からの経緯について報告（省略）
 - 2) 案件
 - (1) 会議録の承認について
座長 会議録は生駒市の公式ホームページに公開する。内容に異議がないようなので、本会議録は承認されたものとする。
 - (2) アンケートの結果と抽出課題の報告について
事務局 <事務局説明>
「アンケートの結果と抽出課題の報告について」
（資料3、資料4、資料5-1、資料5-2）

座長 2,378通のアンケート結果による課題等、食育では5年前、健康日本21では10年前のデータと比較した報告であった。平均約6割の回収率は非常に高い。

参加者 103頁で「がん検診を受けていない」が55.7%と非常に高い。広報いこまのようなPRをもっと進めるべき。胃がん検診は待ち時間が長く、受けに来なくなる。

事務局 時間を細かく区分するなど対策を試行錯誤しているが、40人の胃がんの集団検診では9時に開始しても1時間はかかってしまうのが現状である。

参加者 9時に一斉に集まるのか。

事務局 9時スタートから3区分に分け、11時スタートまでである。

座長 全体的に特徴をつかんで課題をまとめている。来年1月のワーキンググループの議論に向け、今後の分析の視点となるようなご意見をお願いしたい。

参加者 「奈良県民だより11月号」に、「奈良県民の健康寿命日本一を目指す」とある。奈良県は65歳の健康寿命が男女とも近畿でもっとも長く、全国でも男性は10位、女性は18位である。生駒市は奈良県で3番目に人口が多いため、大きく貢献しているのではないか。一方で奈良県の12市の中で、生駒市は医療費が2番目に高い。医療費と健康寿命の関係はあるか。

座長 健康寿命は実際の死亡者数、死亡率、介護保険の対象者の年齢、受給数などから県で算出している。県の健康課と保健センターが連携して、近年の生駒市の健康寿命と、今回のデータを結びつけて議論できればと思う。

事務局 現時点では情報がないため、調べる。

座長 県のデータはいつ頃からあるのか。

参加者 県で市町村ごとに試算したデータがあったと思う。確認する。

参加者 資料5-1で、「わ食の日」の認知度が低いですが、80%という目標が高過ぎるのか。

事務局 毎月19日の「わ食の日」に和食を食べようPRしている。「わ食の日」が日常に反映されているかに加え、「実践する大切さを理解しているか」も、評価すべきだと考えている。このような思いから80%と高い目標値を設定しているが、下げることなく、実践につながる事業を計画していきたい。

座長 市の施策である食育推進計画や健康いこま21は、「周知している」とは言えない。しかし、健康意識は高く健康環境に関わる受動喫煙への反応も高い。ワーキングでは、このようなデータから特徴ある課題を抽出して、解消する作業を行いたい。

参加者 成人は、65歳以上の高齢者を分けて分析していただきたい。

座長 最初からデータを細かく見ると、どこに注目すべきかが分からなくなる。まずは総合的に見て、次の段階で年代や性別などの区分で見ることとしている。

参加者 101 頁の「相談できない理由」で、「相談して悩みが解決するとは思えない」が 48.7%ともっとも高い。日頃相談を受けているため、その内訳を知りたい。

座 長 年齢や性別、中高年の同居家族構成や人数などの分析によって分かりそうである。

参加者 成人で健康いこま 21 を知っている人が 17%、食育推進計画を知っている人が 16%、「わ食の日」を知っている人が 7%など、周知されていない。メタボリックシンドロームの認知度も約 5 割で「はっきりと自覚した形では、知らない人が多すぎる」というのが全体的な感想である。9 つの重点項目をまとめた冊子は分かりやすく良い。情報提供と周知徹底はターゲットを絞って的確に行なうことが重要である。生駒市のホームページの医療費削減コーナーは情報量が膨大である。単に掲載するだけでなく、アクセスした人数の把握も必要である。生駒市医療費適正化検討部会の資料にも周知について記載があり、参考になる。

事務局 生駒市の 1 人あたりの医療費は 30 万円を超え、県内で御所市に次いで高い。ホームページの医療費削減コーナーを、医療費の現状や、将来的な保険料の見込みなど誰でも興味もてる内容にして、国民健康保険の適正化を市民に周知したい。

座 長 例えば、喫煙について国では、業界への勧告による議論ができるが、県や市町村では、そこまでの権限はなく、個人ができる範囲での啓発や情報提供に留まる。「啓発」、「周知」、「支援」について、栄養士などの専門家が施策を検討しているため、見守っていただきたい。案件（2）は、皆様のご指摘を踏まえ、1 月の食育ワーキングまでに、特定部分をさらに詰め、課題をさらに鮮明していきたい。

(3) その他

事務局 <事務局説明>

「生駒市健康増進計画策定スケジュール」（資料 7）（省略）

食育の第 1 回目のワーキングは 1 月 18 日（金）、第 3 回の懇話会は 2 月 13 日（水）午後開催する。開催通知は改めて送付する。今後、事前送付は郵送以外の手段で行ないたいため、「連絡先記入用紙」に従い、提出をお願いする。

参加者 家庭用の FAX は A4 サイズまでで、枚数が多いと受信に時間もかかる。

事務局 大量の場合は郵送する。A3 を A4 に縮小して送信できるが、読みづらい場合は、分割するなど配慮する。

参加者 （修正）県健康づくり推進課の資料では、平成 21 年度、生駒市の男性の 65 歳平均自立期間は 17.66 歳（10 位 県平均 18.82 歳）と県平均を上回る。女性の

65歳平均自立期間は20.32歳（18位、県平均20.33歳）と県平均とほぼ同じ。従って、男性の健康寿命は、82.66歳、女性の健康寿命は85.32歳となります。ただ、0歳平均余命とは比較できないことを申し添えます。

資料5-2は、数値がかなり悪くなっている印象があるため、10年前のデータに、「参考値」と入れたほうがよい。備考欄に、国と同様、「a～c」の評価を記載すれば、より分かりやすくなる。今回の計画では、特に資料5-2の13頁「⑬みんなで支えあう地域づくり」に今後10年間しっかりと取り組んでほしい。健康に関わる様々なサポーターやNPO、ボランティア団体の活動なども入れてほしい。件数だけでなく、活動状況も経年的に評価してほしい。

3. 閉会

座 長 皆様のご協力に感謝する。本日はこれで終了する。

以上